

生活単元学習指導案（細案）

平成26年11月14日 金曜日 2校時
高等部 Dグループ 男子4人 女子2人 計6人
場所 高等部 3年 教室
指導者 ○○○○（CT） ○○○○（ST）

1 単元 「後期現場実習に行こう」

2 単元について

(1) 単元設定の理由

<生徒の実態>

本グループは、1年生2人、2年生2人、3年生2人の計6人で構成されている。2、3年生はこれまでに産業現場等における実習（以下、現場実習）を経験しており、教師と一緒に立てた目標を意識しながら実習に取り組んだり、働くことへの意識や将来の生活に対する期待が高まったりしている。1年生は校内実習や職場体験学習を通して、働くことによる達成感や人から感謝されることの喜びを感じたり、様々な職場や仕事内容への関心が高まったりしている。

一方で、2、3年生の中には、過去の現場実習において見出された課題が解決されず継続している生徒がいる。これは、実習先の評価を生かして自分の課題を認識することができなかったり、評価に基づいて行動を修正することが難しかったりすることによって考える。また、成果と課題に基づいて自ら目標を設定することが難しかったり、評価項目の内容と自己の取組を比較して評価することが難しく、常に同じ評価に印を付けたりする生徒がいる。これは、自分の課題から目標を設定したり、客観的に評価したりする方法を理解していないことによって考える。さらに、現場実習の成果や課題が日常生活につながらない生徒がいる。これは、現場実習と日常生活を結び付けて考えることが苦手であったり、経験そのものが不足していたりするためであると考えられる。

<単元の意義・価値>

このような生徒の実態を踏まえて、「後期現場実習に行こう」を設定した。本単元の学習期間中に後期現場実習が実施されることから、目標設定や自己評価を含む課題解決のプロセスを体系的に学習することができる単元である。

これまでの現場実習で得た評価を生かすことで、自己評価と照らし合わせて得意なことや苦手なことに気付いたり、自らの課題を認識したりすることができる。その上で目標や自己評価の基準を設定して現場実習に臨むことで、自分の具体的な姿をイメージしながら客観的に自己評価をすることができる。さらに、現場実習という限定された場面における取組を日常生活に当てはめることで、今回の現場実習で得た成果と課題を、日常生活で生かしていくための具体的な方法を考えることができる。

<ねらい>

そこで本単元では、これまでの現場実習における他者評価や自己評価を振り返ることで、成果と課題を認識することができるようにする。その上で、現場実習における具体的な目標や評価基準を設定したり、適切に評価したりすることができるようにする。さらに、現場実習の成果と課題を日常生活でどのように生かせばよいか考えることができるようにする。

<指導観>

まず、これまでの現場実習における実習先からの評価と自己評価を確認する活動を通して、これまでの成果や課題を明らかにすることや、自分の得意なことに自信をもったり、苦手なことに気付いたりすることができるようにする。その際、友達と一緒に話し合う活動を設定することで、友達の意見から自分の成果や課題に気付いたり、お互いの良いところを認め合ったりできるようにする。

次に、明らかになった成果や課題を基に、今回の現場実習における具体的な目標設定ができるようにする。また、実習中の活動の様子を映像等で振り返ることで、具体的な姿をイメージしながら目標に対する客観的な評価を行うことができるようにする。そして、評価の結果とその理由を話し合うことで、自己評価の基準となる具体的な行動や態度について考えたり、自己評価の基準と照らし合わせて評価したりすることができるようにする。具体的な目標と自己評価の基準を明記した個別の実習日誌を作成することで、目標達成の動機付けを高めながら意欲的に実習に臨むことができるようにする。

さらに、現場実習終了後、これまで学習した手続きを生かして、今回の現場実習の成果と課題を明らかにし、学校や家庭でどのようにすればよいかを具体的に設定することができるようにする。生徒同士で話し合うことで、友達の意見から発見したり一緒に課題を解決したりすることができるようにする。

<展望>

このような学習を通して、生徒たちは自己理解を深めることができ、様々な活動において進んで目標を立てたり、目標達成のための具体的な方法を考えたりして活動できるようになるであろう。また、評価を肯定的に受け止めることで、自分の得意なことを更に伸ばしたり、課題を解決しようとしたりする意欲を高めることができるようにしたい。そして、これらを基に将来の進路先を決定し、その実現に向けて種々の活動に主体的に取り組めるようになることを考える。

(2) 実態

観点 生徒	自己評価の傾向	目標設定のスキル	課題解決に対する意識
O. R (1年, 男)	目標に対して自分がどのような行動したかを、気持ちと合わせて文章で表現することができる。3段階の評価においても、「ちょっと時間が掛かった。」など理由を説明し、適切な項目に印を付けることができる。他者評価が低いと不安傾向を示すが、教師がその理由や改善策を伝えることで安心する姿が見られる。	普段から保護者や教師に言われていることを意識しており、自分で考えて目標を設定することができる。教師が提案した目標に対して、自分が達成できそうかどうかを判断することができる。少し頑張れば簡単にできそうなことを設定することが多い。	自分で決めたり納得したりした目標は覚えている。目標が負担になる傾向があるため、活動の直前に確認することで、目標を意識し、達成に向けて意欲的に活動に向かうことができる。目標を達成できないことを不安に感じる場面もあるが、教師と一緒にどのようにすればよいかを具体的に考えることで安心する。
Y. R (1年, 男)	客観的に振り返って評価することは難しいが、出来事や自分の気持ちを自分なりに文章で表現することができる。3段階の評価では◎や3に印を付けることが多い。教師とのやりとりの中で、自分なりに評価の理由や自己評価の基準を説明しようとしていることができる。	自ら適切な目標を設定することは難しいが、既に取り組んでいることやできていることなどを目標として挙げ、自分で考えようとする意欲は高い。自分ができていないことを意識したり、自分が達成できそうかを判断したりすることが難しいため、教師とのやり取りの中で目標を引き出すことが多い。	「今頑張っていることは何ですか。」という教師の言葉掛けに対し、じっくりと考えながら、答えようとする。目標を達成するためにどのような行動をとれば良いか考えることは難しいが、目標達成への意欲は高く、「大変だけれども少し頑張ります。」と言いながら活動に向かう姿が多く見られる。
C. I (2年, 男)	全て◎の評価を付けることが多い。具体的な行動で評価基準を示したり、映像を見ながら客観的に自分の行動を振り返ったりすることで、評価を修正することができる。	目標を立てるために過去の資料から必要な情報を読み取ることは難しいが、教師が情報を整理して提示することでやるべきことを理解することができる。教師の質問や提案に答えることを繰り返して、目標を絞ることができる。	教師と一緒に考えた目標を記憶にとどめることは難しいが、目標を掲示したり活動前に確認したりすることで、目標への意識が高まる。自分にとって必然性や興味・関心の高い事柄は覚えていることが多い。目標達成に向けて意欲的に取り組む姿勢が多く見られる。
I. H (2年, 女)	目標に対して自分がどのような行動をしたのか、順序立てて文章に表すことができる。3段階の評価における評価基準をほぼ理解しており、自分の行動を振り返って評価することができる。「だいたい」、「あまり」等の言葉が表す程度も感覚的におおよそ理解している。	体験したことを正確に記憶にとどめることは難しいが、資料を参考にしながら自分で目標を考えようとすることができる。教師の提案に対して、「やりたくないです。」とはっきりと自分の意思を伝えることができる。	自分から課題を見付けたり目標を意識して取り組んだりすることは少ないが、教師が目標の必要性を説明し、意味を理解することで、目標に向かって自分から行動することができる。
I. K (3年, 男)	過去の現場実習の自己評価では、3段階評価の2に印を付けることが多い。思いどおりにいかなかったことを認めたり、過去の出来事を正確に想起したりすることは難しいが、教師と一緒に映像等と照らし合わせることで、「できた」、「できない」の判断を行うことができる。	過去の資料から同じ目標を書き写すことが多い。教師とのやりとりの中で自分の課題を認識したり、目標を考えようとしたりすることができる。	具体的な目標を掲示して確認できるようにしたり、教師が伝えたりすることで目標を意識することができる。より具体的な場面や行動を示すことで、実際に自分がどのようにすればよいかを理解し、取り組むことができる。
S. Y (3年, 女)	実習先からの評価と同じ項目に印を付けることが多い。繰り返すことで評価の方法を理解し、他者からの評価を参考にしなくても適切に自己評価を行うことができる。実習の反省欄には、実施した作業内容のみを記入することが多かったが、「明日は〇〇を頑張りたい。」と具体的に記述することができる。できつつある。	設定時間内に言葉や文章で目標を表現することは難しいが、これまでの現場実習の経験から自分の課題は理解している。実習日誌における実習先のコメントから、成果と課題を読み取ることができる。教師と一緒に考えた複数の目標の中から、達成できそうな目標を選ぶことができる。	最初は教師の言葉掛けが必要であるが、段階的に支援を減らすことで、自信をもって一人で目標とする行動をとることができる。どのような場面で誰に対してどのように行動するかを具体的に示すことで、目標を達成するために自ら行動しようとするが増えている。

3 単元目標

(1) 全体目標

ア これまでの現場実習を客観的に振り返り、今回の現場実習において、具体的に目標を設定したり適切に評価したりすることができる。

イ 現場実習の成果や課題を日常生活においてどのように生かせばよいかを考えたり、課題解決に対する意欲を高めたりすることができる。

育てたい力	評価基準	観点
自分づくり	① 他者評価と自己評価について理解し、過去の資料を参考にして自分の成果や課題を明らかにしようとする。 ② 成果や課題を基に目標や自己評価の基準を設定したり、それらを経験したりする方法を理解し、実践する。 ③ 活動における自分の役割を果たしたり、意見を出したりして学習に取り組もうとする。	【技能】【知識・理解】 【技能】【知識・理解】 【思考・判断・表現】 【関心・意欲・態度】
関係づくり	④ 自分の考えを伝えたり、友達の発表を聞いたりして、課題解決の方法に気付いたり考えをまとめたりする。	【関心・意欲・態度】 【思考・判断・表現】
生活づくり	⑤ 目標を達成するためにどのようにすればよいかを具体的に考える。	【思考・判断・表現】 【技能】

(2) 個人目標

生徒	個別の指導計画の目標	個人目標
O. R (1年, 男)	自分で又は友達と活動計画を立てることができる。	ア 他者評価を受け入れて自分の考えを調整したり、目標設定や評価の方法を理解したりすることができる。 イ 理想の自分をイメージして、現場実習の成果や課題から日常生活での目標を具体的に考えたり、課題解決に向けて自ら取り組もうとする意欲を高めたりすることができる。
Y. R (1年, 男)	自分で調べたりメモを取ったりして計画を立てることができる。	ア 校内実習の成果と課題を適切に認識し、今回の現場実習において具体的な目標を設定したり、評価の方法を理解し自己評価の基準に沿って自己評価をしたりすることができる。 イ 今回の現場実習における成果や課題を適切に認識し、課題を日常生活に当てはめて具体的な目標を設定したり、意識したりすることができる。
C. I (2年, 男)	自己選択と自己決定、人とのかかわり方、余暇の過ごし方など、学習したことを生活に生かすことができる。	ア これまでの現場実習の成果と課題を認識することで、今回の現場実習において具体的な目標や自己評価の基準を設定したり、目標を経験する方法を理解したりすることができる。 イ 今回の現場実習の成果や課題を認識し、日常生活における具体的な目標や自己評価の基準を設定したり、その理由を言葉で説明できるようにしたりすることで、課題解決への意欲を高めることができる。
I. H (2年, 女)	友達と協力して計画を立てたり、実行したりすることができる。	ア 他者評価や自己評価を振り返ることで成果や課題を確認する方法を理解し、具体的な目標や自己評価の基準を考え自己評価をすることができる。 イ 学習した手続きを生かして日常生活における目標を自ら設定したり、進路希望の実現に向けて課題解決への意欲を高めたりすることができる。
I. K (3年, 男)	身の回りの人や物、社会や集団生活への興味・関心を高め、関わりを広げることができる。	ア 実際の自分の行動や態度と照らし合わせて、目標に対する評価を適切に行うことができる。 イ 今回の現場実習における成果と課題を認識し、日常生活場面において、いつ、どこで、何をするのかを具体的に考えながら目標や自己評価の基準を設定することで、目標達成への意欲を高めることができる。
S. Y (3年, 女)	自分の役割や目標を意識して活動に取り組むことができる。	ア これまでの現場実習の成果を認識して自信を高めたり、目標設定や評価の方法を理解したりすることで、肯定的な自己評価をすることができる。 イ 学習した手続きを生かして、今回の現場実習の成果と課題を認識したり、日常生活における具体的な目標を設定したりすることを通して、課題解決のために自分で考えることの有効性に気づき、課題解決に向けて取り組む意欲を高めることができる。

4 指導計画（総時数16時間）

次	時数	主な学習活動・内容 【評価規準との関連】	同時期に実施する各教科との関連
一	1	1 現場実習について確認する。【評価規準③】 (1) 学習計画を確認する。 (2) 実習の目的を話し合う。 (3) 実習先について調べる。 (4) 四者面談の資料を基に、仕事内容や通勤方法などを確かめ、実習日誌に記入する。 (5) 実習先や仕事内容を発表する。	○ 資料から要点を読み取り、整理する。 → 国語「いろいろな文章に親しもうⅠ」
二	9	2 これまでの現場実習における、成果と課題を明らかにする。【評価規準①④】 (1) これまでの実習の資料を振り返り、他者評価と自己評価を確認する。 (2) 自分や友達の得意なところや課題を話し合う。 3 目標や自己評価の基準を設定する。【評価規準②③④】 (1) 成果や課題から目標を設定する。 (2) 客観的に評価する方法を知る。 ア 映像を見て、評定する。 イ 友達同士で評定の理由を話し合う。 (3) 目標に対する自己評価の基準を設定する。 (4) 実習日誌を作成する。 4 後期現場実習壮行会の発表準備や練習をする。【評価規準④】 (1) 発表資料を作成する。 (2) 予行練習をする。 5 現場実習壮行会をする。【評価規準③④】	○ 自分の良さや課題を認識する。 → 作業学習「ふようフェスタに向けて製品を作ろう」、「委託作業をしよう」 → 総合的な学習の時間「働くこと・いろいろな生活について考えよう」、「将来の夢について考えよう」 ○ 目標や自己評価の基準を設定したり、それに基づいて評価したりする。 → 作業学習「ふようフェスタに向けて製品を作ろう」、「委託作業をしよう」 ○ 自分の姿を具体的にイメージして、文で表現する。 ○ 友達の意見を適切に読み取る。 → 国語「感じたことを表そう」
後期産業現場等における現場実習			
三	6 本時 (5/6)	6 現場実習を振り返り、成果と課題を明らかにする。【評価規準①④】 (1) 実習日誌を確認したり他者評価と自己評価を比較したりすることで、成果と課題を知る。 (2) 自分や友達の実習の様子の映像を見て、目標に対する姿について意見を出し合う。 (3) 実習の成果と課題をまとめる。 7 後期現場実習報告会の発表準備や練習をする。【評価規準④】 (1) 発表資料を作成する。 (2) 予行練習をする。 8 後期現場実習報告会をする。【評価規準③④】 9 今後の学校生活や家庭生活における目標を考える。【評価規準③④⑤】 (1) 自分や友達の情報から、良いところや頑張るところについて考える。 (2) 具体的な場面や行動等について考え、話し合う。	○ 自分の良さや課題を認識する。 → 作業学習「ふようフェスタに向けて製品を作ろう」、「委託作業をしよう」 → 総合的な学習の時間「働くこと・いろいろな生活について考えよう」、「将来の夢について考えよう」 ○ 今回の現場実習の成果と課題から、日常生活において自分の良さを伸ばしたり課題を解決したりする方法を考える。 → 総合的な学習の時間「働くこと・いろいろな生活について考えよう」、「将来の夢について考えよう」
単元（題材）相互の指導内容及び学習活動のつながり			
【前の単元】 ・ 「前期現場実習に行こう」では、これまでの現場実習の成果や課題を基に自分で目標を設定する。 ・ 「卒業後の生活について考えよう」では、目的や場所などに応じた服装を調べる。 【次の単元】 ・ 「みんなで出掛けよう」では、生徒同士で話し合っ て計画を立てたり、公共交通機関の利用のマナーを確認したりする。 ・ 「前期現場実習に行こう（次年度6月）」では、本単元で学習した手続きを生かし、自ら目標や自己評価の基準を設定したり、目標達成への意欲を高めて現場実習に臨んだりする。 【各教科等の単元（題材）】 ・ 国語「相手に伝えよう」では、インターネットや冊子などから、必要な情報を調べてまとめる。 ・ 国語「相手に伝えよう」では、自分の考えを文にして表現したり、友達に伝えたりする。 ・ 数学「時計や暦を活用してスケジュールを立てよう」では、自分の手帳等に今後の予定をまとめたり、取り組んだことを時間を追って整理したりする。			

5 本時の学習（15／16）

(1) 全体目標

自分や友達が設定した目標について話し合い、目標とする姿に近づくための具体的な方法をまとめることができる。

(2) 個人目標

生徒	個人目標	評価規準との関連
O. R (1年, 男)	自分や友達が目標を達成するためにはどのようなことができそうかを考えて書き出したり、話し合いで自分の考えを伝えたりすることができる。	③④⑤
Y. R (1年, 男)	目標を達成するためには、どの場面でどのような行動をすればよいのか具体的に考えて書き出したり、適切に理由を説明しながら取り組みやすい順番に並べたりすることができる。	④⑤
C. I (2年, 男)	目標を達成するためにどのようなことができそうかを考えて書き出したり、友達の意見を聞いて、どれが取り組みやすいかを考えて理由を説明したりすることができる。	④⑤
I. H (2年, 女)	進行役として友達の意見をまとめたり、目標を達成するための複数の方法や取り組みやすい順序を考えたりすることで、目標達成へ向けて意欲を高めることができる。	③④⑤
I. K (3年, 男)	友達が目標を達成するためにどのようなことができそうかを考えて、文型を手掛かりにしてまとめたり、具体策を二者択一して、取り組みやすい順番に並べたりすることができる。	④⑤
S. Y (3年, 女)	具体策を考えるポイントを意識しながら、設定された時間内に考えて発表したり、自分なりに取り組みやすい順に並び替えたりすることができる。	④⑤

(3) 指導及び支援に当たって

学習活動の概要と授業環境の工夫

生徒たちは、前時までの学習において、実習日誌における評価や実習中の映像を見て振り返ることで、後期現場実習の成果と課題を確認することができた。また、それを基に今後の学校生活や家庭生活の目標を考え、後期現場実習報告会で発表することで、目標達成への意識が高まりつつある。しかし、その目標を達成するために、どの場面で、どのような行動をするべきか自分自身で考えることが難しく、行動に移すことができない姿が見られる。

そこで本時では、目標を達成するためにはどうすればよいか具体的な行動を考え、目標達成のためのステップアップリストとしてまとめる。お互いに意見を出し合って協働して解決を目指すことで、自信や意欲を高めながら、課題解決に向けて主体的に取り組むことができるようにする。

具体的には、まず、目標を達成するためにはどうすればよいかを、それぞれが考える時間を設定し、自分の意見をミニホワイトボードに書き出す【自分づくり】。次に、全体場で発表する機会を設け、自分の意見を伝えたり友達の意見を聞いたりすることで、自分とは異なる意見や共通点に気付く、考えを深めることができるようにする【関係づくり】。さらに、全員の意見が書き出されたミニホワイトボードを活用して、内容を比較したりまとめたりする。生徒がお互いに意見を出し合いながら、目標を達成するために、簡単に行動に移すことができそうなものから順番に並べ替えて、目標達成のためのステップアップリストとしてまとめることができるようにする。最後に、完成したステップアップリストを自分の手帳に書き写し、携帯することで、困ったときに課題解決の方法をいつでも確認できるようにしたい【生活づくり】。

座席配置を半円状にして、発表する友達やホワイトボードの掲示に注目したり、お互いの様子を見ながら意見交換をしたりすることで、友達同士で学び合うことができるようにする。

教材・教具とのかかわりについて

- ア C. IやI. Kは、記入する内容のポイントを押さえた文型を示しておくことで、文章の表現を意識しながらミニホワイトボードに記入することができるようにする。
- イ 前方のホワイトボードには、友達の目標や具体策を示したミニホワイトボードを並べて掲示する枠を設定し、毎回同じ形式で取り組むことで、生徒がやるべきことや内容を理解することができるようにする。
- ウ I. Hがやるべきことを理解して進行することができるよう、台詞を示した進行カードを使用する。
- エ S. Yがタイマーをセットして示すことで、時間内に自分の考えをまとめることができるようにする。
- オ 活動の流れや話し合いのテーマなどをホワイトボードに掲示することで、今やっていることやこれからすることを確認することができるようにする。
- カ 発表の順番を決め掲示することで、次の活動を理解して自分から発表場所に移動することができるようにする。

人（友達や教師）とのかかわりについて

- ア I. Hが進行し、自分の考えを発表したり友達の発表を聞いたりすることで、生徒同士で学び合うことができるようにする。
- イ C. Iがテーマとなる目標を発表したり、S. Yがタイマーをセットしたり、Y. Rがホワイトボードを配ったりするなど、進行以外も生徒の役割を設定することで、より主体的に学ぶことができるようにする。
- ウ 必要に応じてSTが具体策を提示したり話し合いに参加したりすることで、より多くの課題解決の方法を導き出すことができるようにする。
- エ 友達の意見を掲示したりそれを基に話し合ったりすることで、新たな具体策に気付いたり考えたりすることができるようにする。

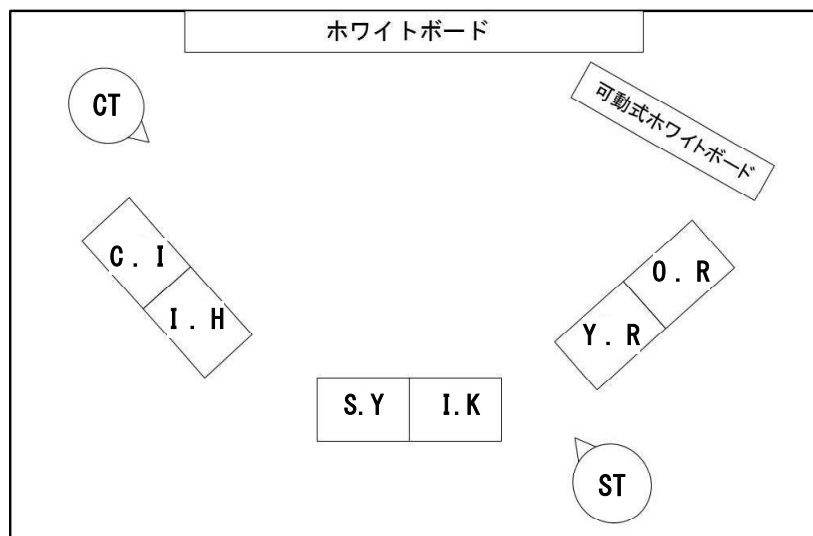
自分とのかかわりについて

- ア 友達の意見を聞くことで、目標を達成するためには様々なアプローチがあることに気付き、自分の考えを深めたり広げたりすることができるようにする。
- イ 授業で話し合った目標設定のためのステップアップリストを手帳に書き写すことで、自分の考えの広がりや話し合いの成果を認識したり、日常生活においていつでも携帯して確認したりすることができるようにする。
- ウ ミニホワイトボードに自分の考えを文章にして書き出すことで、自分の意見を整理してから友達に伝えることができるようにする。
- エ S. Yには、前日に授業の1回目で扱う目標を伝えておく。事前に考えた具体策をミニホワイトボードに書き写すことで、自信をもって発表したり、2回目に自分で具体策を考える意欲につなげたりすることができるようにする。

(4) 実際

過程	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	資料・準備
導入 (5分)	1 始めの挨拶をする。 2 学習内容を確認する。 3 本時の学習について話し合う。 目標を達成するための ステップアップリストを つくろう。	- 手帳を見ることで前時の学習内容を思い出すことができるようにする。 - 学習計画表を確認することで、本時の学習への意識付けを行ったりする。 - 生徒から意見を引き出しながら、教師と一緒に目標を設定できるようにし、学習への目的意識を高める。	- 手帳 - 学習計画表 - 学習の流れ
展開 (40分)	4 発表者の目標を見て、達成するための具体策を全員で考える。 (1) 具体策を考え、ミニホワイトボードに書き出す。 (2) 順番に、自分が考えた具体策を発表したり、友達の発表を聞いたりする。 5 4で出された具体策を話し合い、まとめる。 (1) 似ている具体策を整理する。 (2) 発表者は、自分が「できそう。」と感じる順番に並び替える。 (3) 完成した目標達成のための具体策のリストを、手帳に書き写す。 6 4と5を繰り返す。	- 考える時間を決めてタイマーをセットすることで、集中して取り組んだり時間内に意見を書き出したりすることができるようにする。 - 具体策を考える際に、「いつ」、「どこで」、「誰に対して」などのポイントを示すことで、より具体的な具体策を考えることができるようにする。 - 生徒が書き出した具体策が偏っている場合、より多様な話し合いができるよう、STも生徒と同様に具体策を考える。 - ミニホワイトボードに記入した具体策を基にして発表することで、自分の考えを整理して相手に伝えることができるようにする。 - 発表の順番表を提示することで、生徒が自分の順番を理解して行動することができるようにする。 - 生徒が記入したミニホワイトボードを前方の可動式ホワイトボードに掲示することで、友達の発表内容をいつでも確認できるようにする。 - 話し合いの過程が理解しやすいよう、ミニホワイトボードを操作して意見を整理する。 - 生徒が手続きを理解しやすいように、板書の形式を統一しておく。 - CTは、生徒自身がより良い考えに気付いたり結果を導き出したりできるような言葉掛けを行う。 - 生徒が出した意見に対してどこが良かったのかを具体的に称賛することで、自信をもったり意欲を高めたりしながら取り組めるようにする。 - 手帳に写すことで、学んだことを共有したり、自分の課題解決にも生かしたりすることができるようにする。	- 進行カード - タイマー - ポイント表 - ミニホワイトボード - 発表の順番表
終末 (5分)	7 本時の振り返りをする。 8 終わりの挨拶をする。	- 本時のめあてを振り返り、学習の成果や課題を認識できるようにする。 - 感想を出し合ったり、次時の学習内容を確認したりすることで、次時への意欲を高める。	

(5) 場の設定



(6) 教材・教具

活動の流れ表	進行カード	ホワイトボードの枠
活動の流れに見通しをもち、次に行くことを理解して自分から行動することができるようにするもの。	生徒がスムーズに活動を進行するための台詞を示したもの。	生徒自身がステップアップリストとして、ミニホワイトボードを並べ替えたり、書き写したりすることができるように、ホワイトボード内の配置や枠を示したもの。
タイマー	ポイント表	手帳
時間内に自分の考えをまとめることができるようにするもの。	どのような視点で具体策を考えたり、ミニホワイトボードに書いたりすればよいかを確認するもの。	これまでの学習でまとめた具体策を書き込み、ふだんから携帯して、いつでも確認できるようにしたもの。

(7) 評価

ア 全体目標に対する評価

自分や友達が設定した目標について話し合い、目標とする姿に近づくための具体的な方法を考えたりまとめたりすることができたか。

イ 個人目標に関する評価

生徒	個人目標に対する評価基準	評価	具体的な手立ての評価	評価
O. R (1年, 男)	A 目標達成のための具体策を考えて複数の意見をミニホワイトボードに記入したり、話し合いで積極的に自分の意見を伝えたりすることができた。 B 目標達成のための具体策を考えて、一つの目標に対し一つの意見をミニホワイトボードに記入したり、話し合いで自分から意見を伝えたりすることができた。 C 目標達成のための具体策を考えて記入したり、話し合いに参加したりするために教師の促しが必要だった。		提示したポイントは具体的な具体策を考える際に効果的であったか。 教師の言葉掛けは、話し合いで考えを深めたり意見を言ったりするきっかけになる伝え方であったか。	
Y. R (1年, 男)	A いつ、どこで、どのようにするのかを具体的に考えてミニホワイトボードに記入したり、「○○だから○○だと思います。」と適切に考えの理由を述べて取り組みやすい順番に並べたりすることができた。 B 具体的な行動を考えて記入したり、適切に考えの理由を述べて取り組みやすい順番に並べたりすることができた。 C 教師と一緒に具体的な行動を考えて記入したり、自分の考えを整理して理由を述べて取り組みやすい順番に並べたりするために教師とのやりとりが必要だった。		具体策を具体的に考えるためのポイント表は分かりやすいものであったか。 教師の言葉掛けは、理由を説明する際に本人の考えを引き出すものであったか。	
C. I (2年, 男)	A 目標を達成するためにどのようなことができそうかを文で表して複数の意見を書き出したり、友達の意見を聞いて、どれが取り組みやすいかを考えて理由を適切に説明したりすることができた。 B 目標を達成するためにどのようなことができそうかを文で表したり、友達の意見を聞いて、どれが取り組みやすいかを考えて自分なりに理由を説明したりすることができた。 C 目標を達成するためにどのようなことができそうかを考える際に教師の支援を受けて文を分かりやすく修正したり、友達の意見を聞いて、どれが取り組みやすいかを考え、自分なりに理由を説明したりすることが難しかった。		ポイント表は具体策を想起するために有効なものであったか。 教師の言葉掛けは、理由を説明する際に本人の考えを引き出すものであったか。	
I. H (2年, 女)	A 進行役として自分から友達の意見を引き出してまとめたり、目標を達成するための複数の方法や取り組みやすい順序を考えたりすることで、目標達成に向けて意欲を高めることができた。 B 進行表を手掛かりにして話し合いを進めたり、目標を達成するための複数の方法や取り組みやすい順序を考えたりすることで、目標達成に向けて意欲を高めることができた。 C 進行表を手掛かりにして話し合いを進めることはできたが、目標を達成するための複数の方法を考えることは難しく、目標達成に向けて意欲を高めることができなかった。		活動を円滑に進めたり、友達の意見をまとめたりするために進行カードは有効であったか。 話し合い活動への参加の必然性をもたせさせるために進行役を行なったことは、課題解決への意欲を高めるために適切であったか。	
I. K (3年, 男)	A 目標を達成するためにどのようなことができそうかを、文型を手掛かりにして複数の具体策を書き出したり、前回の友達の様子を参考にしたりして、具体策を取り組みやすい順番に自分で並べたりすることができた。 B 目標を達成するためにどのようなことができそうかを考えて、文型を手掛かりにしてまとめたり、教師や友達の意見を参考にしたりして、具体策を取り組みやすい順番に並べたりすることができた。 C 目標を達成するためにどのようなことができそうかを考えて文型を手掛かりにしてまとめたり、二者択一をして、具体策を取り組みやすい順番に並べたりすることが難しく、随時教師の言葉掛けが必要だった。		ポイント表は本人にとって分かりやすいものであったか。 ホワイトボードの配置や枠は、情報を理解しやすいものであったか。	
S. Y (3年, 女)	A 時間内に二つ以上の意見を考えてミニホワイトボードに書いたり、前に出て、自分なりに取り組みやすい順番に並び替えたりすることができた。 B 時間内に一つの意見を考えてミニホワイトボードに書いたり、前に出て、友達の意見を参考にしたり、前に出て自分なりに取り組みやすい順番に並び替えたりすることができた。 C ミニホワイトボードに意見を書き出したり、並び替えたりすることが難しく、教師の言葉掛けのとおり活動を行なった。		教師の言葉掛けは、ミニホワイトボードに記入する際のポイントに気付くことができる言葉掛けであったか。 タイマーをセッティングする役割設定は、時間を意識するために有効であったか。	

評価基準 A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった

手立て A：十分に有効であった B：有効であったが十分ではない C：あまり有効ではない